

How to Prepare the Manuscript to Be Submitted to JROS

First Author^{a,*}

Second Author^{b,c}

Third Author^b

^a*Graduate School of XXX, University of XXX*

^b*Department of YYY, YYY University*

^c*ZZZ Co., Ltd.*

Abstract: Abstract should be about 100 words. Keywords are separated by the semicolon and the initial letter should be capitalized.

Keywords: Real options; Uncertainty; Investment; Game theory

*Corresponding author. Address: 000 Street Name, City, State/Province, Zip/Postal Code, Country; Phone: +Country Code-0-0000-0000; E-mail: **email@email.com**

リアルオプション研究投稿原稿の準備について

第一 著者^a

第二 著者^{b,c}

第三 著者^b

^aXXX 大学大学院 XXX 研究科

^bYYY 大学 YYY 学科

^cZZZ 株式会社

1 はじめに

この L^AT_EX ファイルは、リアルオプション研究投稿のためのサンプルファイルである。必ずパッケージ `jros.sty` と合わせて使用する。コンパイルされた PDF ファイルと一緒に、L^AT_EX ファイルのコマンドも確認されたい。

著者名はコマンド `\and` で区切る。著者の所属は、コマンド `\afa`, `\afb`, `\afc`, ... で区別する。複数の所属がある場合は、コマンド `\af` を所属記号の間にスペースを入れずに書く。Corresponding author には、コマンド `\cor` をつける。その際、所属記号と `\cor` の間にスペースを入れずに `\af` を書く。著者が 1 人の場合は、所属記号は不要である。

参考文献の参照は、パッケージ `natbib.sty` に基づく。参考文献は、Abel et al. [1], あるいはオプションつきで Dixit and Pindyck [2, Ch.7] のように、本文中で必ず参照する。参照していない文献は、参考文献リストから削除する。参考文献は英文アルファベット順、和文のあいうえお順に並べる。書き方は参考文献のスタイルのとおり、論文は [1, 5], 書籍は [2, 4], 書籍の章は [3, 6] に従う。参考文献環境中のコマンドも確認されたい。

2 モデル

2.1 設定

数式は、

$$dP_t = \alpha P_t dt + \sigma P_t dW_t, \quad P_0 = P \tag{1}$$

のように自動的に左揃えになる。式番号はコマンド `\eqnref` を使って、(1) 式のように参照する。参照しない数式は、

$$\frac{1}{2}\sigma^2\beta(\beta-1) + \alpha\beta - \rho = 0$$

のように式番号を省略してもよい。

表 1: パラメータ値		
パラメータ		値
期待成長率	α	-0.015
ボラティリティ	σ	0.2
割引率	ρ	0.05

2.1.1 価値観数

以下の定理環境が利用可能である.

命題 1 (オプション) かくかくしかじか...

定理 1 (オプション) かくかくしかじか...

補題 1 (オプション) かくかくしかじか...

系 1 (オプション) かくかくしかじか...

定義 1 (オプション) かくかくしかじか...

仮定 1 (オプション) かくかくしかじか...

注 1 (オプション) かくかくしかじか...

例 1 (オプション) かくかくしかじか...

3 結果と考察

図表は本文中に配置し, 基本的に `[htbp]` オプションは使用しない. 表中で数字を小数点で並べたい場合は, `コマンド@{.}`を使う. 詳細は `tabular` 環境のコマンドを確認されたい. 表番号は, 表 1 のように参照する.

リアルオプション研究はオンラインジャーナルなので, 図をカラー表示することができる. 図中の文字は, 本文中と同様の大きさとフォントにする. 図番号は, 図 1 のように参照する.

4 結論

付録が必要な場合は, 付録の直前に `コマンド\appendix` を書く.

A 命題 1 の証明

参照コマンドはもう 1 つあり, `\secref` で 1 節となる. すべての番号はコマンドで参照し, 残りの命題, 定理などは通常のコマンド `\ref` を使う.

証明: `proof` 環境では, 最後に Q.E.D. 記号が自動的に出力される.

□

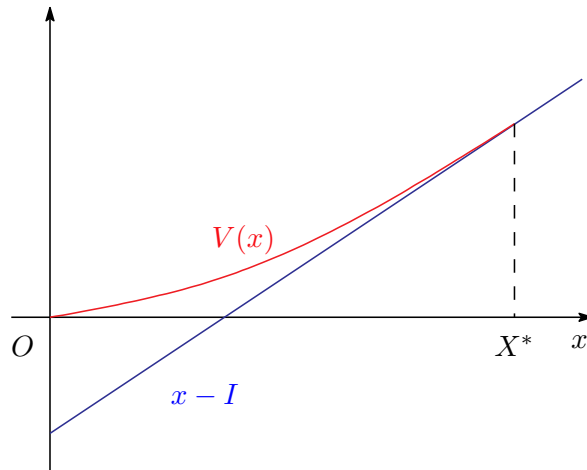


図 1: 計算結果

謝辞

謝辞を述べる場合は参考文献の直前に、コマンド\section*で番号なしの節を作る。

参考文献

- [1] Abel, A. B., Dixit, A. K., Eberly, J. C. and Pindyck, R. S. (1996): Options, the Value of Capital, and Investment, *Quarterly Journal of Economics*, **111**, 753–777.
- [2] Dixit, A. K. and Pindyck, R. S. (1994): *Investment under Uncertainty*, Princeton University Press, Princeton.
- [3] Dixit, A. K. and Pindyck, R. S. (2000): Expandability, Reversibility, and Optimal Capacity Choice, In Brennan, M. J. and Trigeorgis, L. (eds.): *Project Flexibility, Agency, and Competition: New Developments in the Theory and Application of Real Options*, Oxford University Press, Oxford, 50–70.
- [4] 伊藤清 (1991): 「確率論」, 岩波書店.
- [5] 高嶋隆太, 後藤允, 宮口直也 (2008): “不確実性下における発電プラントの投資評価：投資率変更オプションとスパークスプレッド・オプション”, リアルオプション研究, **1**, 1–17.
- [6] 高森寛 (2006): “リアルオプション・モデルの基礎”, リアルオプション学会編: 「リアルオプションと経営戦略」, シグマベイスキャピタル, 1–25.